

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 3年連続、大臣賞を受賞しました

6月19日、第41回（平成24年度）全国豆類経営改善共励会で、本市に在住の浮川さんが農林水産大臣賞を受賞しました。これで、第39回の伊藤さん、第40回の林さんに続き本市の農家が3年連続して大臣賞を受賞したことになります。

受賞した浮川さん、伊藤さん、林さんのいずれも南高泊干拓に大区画の農地を持つ豆類の生産農家ですが、当該地区で農業協同組合を作り、その組合で大型の機械を購入し、それぞれのほ場の生育状況から、限られた台数の機械が有効活用できるよう作業計画を立てたり、地元の畜産農家との間で堆肥と稲わらを交換し合い、土作りに励んだりしているそうです。

その他、豆類を栽培する農家だけでなく、みなさんにも参考になりそうなお話を紹介します。

Aさん方では、すでに経営は子どもに譲っていますが、親子の間で「家族経営協定」を結び、経営方針や役割分担を明確にしているとか。協定は1年に1回見直し、経営改善に役立っているそうです。

Bさんは、環境に配慮した持続的な農業に取り組む者として、エコファーマーの認定を受けています。

Cさんは、小麦・水稻・大豆の2年3作の体系を導入し、土地利用をなんと158%まで引き上げ、これが雑草の防止に役立つなど、徹底した省力化に努めているそうです。

こうした、ちょっとした工夫と斬新な取り組

み。農業に限らず、どの分野でも応用が利きそうな気がしますが、みなさんいかがでしょうか。お問い合わせがあれば、行政も何かお役に立てないか、ご一緒に知恵を絞らせていただきます。

■ 市政説明会を開催しています

7月から9月にかけて、当面する市政上の課題について、12小学校区を回っています。まず、「火葬場の建設」について。本市には小野田と山陽に二つの火葬場がありますが、ともに寿命が尽きかけています。たまたま宇部市の火葬場も同様な状況で、昨年1年かけて事務レベルでの共同研究に取り組みました。今後、有識者を交えた検討委員会を立ち上げる予定ですが、その一方で、どの市民もお世話になる火葬場のことから、広域（宇部市との共同施設）にするか、それとも本市単独の施設にするか、直に市民の声を聞いておきたいと考えました。

二つ目は、「学校給食施設の建設」についてです。すでに宇部市では4,000食規模、光市では4,500食規模の給食センターの建設が始まっていて、平成26年度の2学期から供用開始の予定だそうです。そうした背景を踏まえ、今回は「望ましい食育のあり方」の議論は横に置いて、もっぱら給食施設の建設に絞って、広く市民のみなさんの声をお聞きしたいと考えています。

その他、厚狭地区、埴生地区では公共施設の再編整備の問題もあります。私からの一方的な説明に終始せず、できるだけみなさんの率直な声が聞ける場とすることに心がけるつもりです。